

家 庭

1 学習指導と評価における課題

平成28年8月の中央教育審議会教育課程部会「家庭、技術・家庭ワーキンググループ」(以下、「ワーキンググループ」という。)における審議の取りまとめ配付資料によれば、女子のみ履修であった高等学校の家庭科は、平成6年度から男女必履修となり21年が経過し、「家庭科は実生活に役立つ」、「家庭科を学習してよかった」という意見があるとおり、生徒は肯定的に捉えており、また、「将来生きていくために重要な科目である」という意識も高く、一定の成果を得ていることが示された。

一方で、生活体験が減少している生徒に対して、実験や実習等を取り入れ、現実の生活の中で活用するための実践力や応用力を身に付けさせる必要があることや、「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」等の問題解決的な学習において、「何を問題とし」、「どう解決するのか」について、生徒の興味・関心を踏まえた学習になっていないことが課題となっている。

北海道高等学校長協会家庭部会調査研究委員会では、平成27年9月から10月にかけて、道の校長協会家庭部会に所属する高等学校及び中等教育学校を対象として課程別、大学科別に、「家庭科教育の在り方及び実施状況」に関する調査を実施した。

その結果分析では、「ホームプロジェクト」の指導場面は、「授業中」が55.3%、「長期休業中」が36.7%、「放課後」が4.2%となっている。

また、「ホームプロジェクト」の総指導時間は、「0～1単位時間」が44.3%、「2～5単位時間」が36.4%となっており、ホームプロジェクトの指導については、授業において取組の概要を説明し、長期休業中等の家庭学習の課題として取り組ませている学校が多いと考えられる。

現行の学習指導要領では、家庭科においては、実践的・体験的な学習活動を通して、家族と家庭の役割、生活に必要な衣、食、住、情報、産業等についての基礎的な理解と技能を養うとともに、それらを活用して課題を解決するために工夫し創造する能力と実践的な態度の育成を一層重視するように改訂され、平成28年8月の「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」では、家庭科の指導内容について、学習過程を踏まえた改善が必要であり、生活の中から問題を見出し、課題を設定し、解決方法を検討し、計画・実践、評価・改善するという一連の学習過程を重視し、この過程を踏まえて基礎的な知識・技能の習得に係る内容や、それらを活用して思考力・判断力・表現力等の育成に係る内容について整理することが適当であるとされていることから、「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」等の問題解決的な学習の一層の充実が求められている。

2 育成すべき資質・能力を踏まえた学習指導・評価の改善・充実

(1) 教科において育む資質・能力を踏まえた指導の改善・充実

「ワーキンググループ」によれば、共通教科「家庭」で育成する資質・能力について次のように示している。

○ 共通教科「家庭」において育成すべき資質・能力

- ① 生活を科学的に理解し、生涯を通して安心・安全・健康的な生活を営む実践力
- ② 生活の課題を解決するために、様々な年代の人と協働し、コミュニケーションして主体的に参画する力

<具体的な内容>

- ◆ 少子高齢社会に対応する力（子育て理解、高齢者の理解、生涯生活設計能力）
- ◆ 生活課題を解決するために必要な社会参画力、コミュニケーション能力（地域コミュニティを構築）
- ◆ 持続可能な社会を構築する力（消費・環境に配慮したライフスタイルの確立）
- ◆ グローバル化に対応する力（衣食住の生活文化の継承・発信）

こうした育成すべき資質・能力を踏まえ、乳幼児との交流を通じて、子どもを育てる視点から、子どもを生み育てることの意義や子どもと関わることの重要性を学んだり、高齢者との交流を通じて、地域の方を講師として招聘したり、施設訪問をしたりして高齢者に対する理解を深めたりするなど、実践的・体験的な学習活動を行うことが重要である。

また、生徒の学びへの積極的関与と深い理解を促すような指導や学習環境を設定する必要があり、次の視点に立って指導することが求められている。

- i) 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。
⇒ 実社会や実生活に関わる主題に関する学習を積極的に取り入れ、結婚や育児など各ライフステージで想定される生活上のリスクへの対応方法等、生徒が自己の将来の生活設計について主体的に考える場面を設定する。
- ii) 生徒同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
⇒ 乳幼児や高齢者など地域の様々な年代の人との交流や生徒同士が協働する場面を設定する。
- iii) 家庭科で習得した概念や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせ、問いを見いだして解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。
⇒ 実験・実習やホームプロジェクト、学校家庭クラブ活動など課題解決に向けた探究活動を行う中で家庭科で身に付けた資質・能力が総合的に活用・発揮される場面を設定する。

評価については、生徒にどういった力が身に付いたか、という学習の成果を的確に捉え、教員が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにすることが重要であり、教員は、個々の授業のねらいをどこまでどのように達成したかだけでなく、生徒一人一人が、前の学びからどのように成長しているか、より深い学びに向かっているかどうかを捉えていくことが必要である。

なお、これら生徒の資質・能力がどのように伸びているかを把握するためには、指導と評価の一体化を図る中で、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等といった多様な活動に取り組みさせるパフォーマンス評価などを取り入れ、ペーパーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価を行っていくことが必要である。

本手引では、家庭科で育成すべき資質・能力を示し、その資質・能力を育成するための単元の指導と評価の計画及び授業の指導実践の具体例を示す。

(2) 学びの過程を重視した単元の指導と評価の計画

習得した概念（知識）や考え方を実際に活用して、問題解決等に向けた探究を行う中で、生徒はより「深い学び」とすることが可能となる。ここでは、科目「家庭総合」における「(2)子どもや高齢者とのかかわりと福祉」に関する分野で「アクティブ・ラーニング」の視点を効果的に取り入れた単元の指導と評価の計画例を示す。

【単元の指導と評価の計画例】

家庭総合4単位（全140時間）

(2) 子どもや高齢者とのかかわりと福祉

ア 子どもの発達と保育・福祉（全17時間）

表中の（★）は「アクティブ・ラーニング」の視点による学習が可能な授業展開例である。

時間	学 習 活 動	評価の観点				評価規準・評価方法	学習のプロセス	
		関	思	技	知			
4	ア 子どもとかかわる ・親の役割と保育について学ぶ。		○		○	・子どもは生活の中で人とかかわりを通して育つことを理解し適切な接し方をまとめている。 ◇ワークシート、定期考査	習得 ※1	※1 習得 子どもとかかわりの重要性について、知識を習得させる。
	・保育所実習（★）	○		○		・子どもと積極的に触れ合い、行動を観察することができる。 ◇観察、実習ノート	活用 ※2	※2 活用 学習した子どもとかかわり方を保育所実習で活用させる。
6	イ 子ども発達と生活 ・子どもの発達段階と発達の順序や個人差について学ぶ。				○	・乳幼児が人間の発達段階において重要な時期であることを理解している。 ◇定期考査、ワークシート	習得	
	・遊びの意義や子どもへの影響、発達段階に見合う遊びについて学ぶ。（★）		○		○	・遊びの意義や児童文化の子どもへの影響について理解し、考えをまとめている。 ◇作品、定期考査	習得	
	・子どもたちの発達段階に見合った折り紙を教える技能を身に付ける。			○		・子どもたちの発達段階に合わせた折り紙を教える技術が身に付いている。 ◇作品、定期考査	活用	
	・保育所実習を基に、子どもが理解できるような折り紙の折り方の絵本を作成する。（★）	○		○		・子どもとかかわりに興味を持ち、児童文化財の影響について考え、適切な作品を制作できる。 ◇作品、定期考査	探究 ※3 活用 ※4	※3 探究 どのように改善すればよりよい作品になるか、子どもの身体発達や興味・関心を考えて保育所実習をどのように生かしていくか、自分の意見をまとめる。
4	ウ 親の役割と子育て支援 ・発達段階に応じた親や周囲の働きかけについて学ぶ。		○		○	・親のしつけや社会の支援の必要性を理解し、考えをまとめている。 ◇ワークシート、定期考査、発言	習得 探究	
	・子育てマップの作成（★）	○	○	○		・実施している子育て支援に関心を持ち、意見をまとめ発表している。 ◇作品、ワークシート	活用	
3	エ 子ども権利と福祉 ・子どもを取り巻く課題について学ぶ。		○		○	・少子社会における子どもを取り巻く課題を理解している。 ◇ワークシート、定期考査	活用	
	・子どもを取り巻く課題に対しグループで考えをまとめ、ロールプレイを実施し、発表する。（★）	○	○	○		・課題に対して関心を持ち、具体的な情報を積極的に収集し、グループで考えをまとめ、発表している。 ◇発表、ワークシート、観察	活用 探究	※4 活用 自分の考えをまとめ、適切な作品を制作する。

※ p68 【授業展開例】参照

(3) 「アクティブ・ラーニング」の視点からの学習・指導方法の改善

学習の目標をより明確化するよう整理し、「対話的な学び」の場面を設定することにより、生徒は学習内容をより効果的に身に付けることが可能となる。また、生徒の深い理解を促すためには、生徒にとってより身近な課題を提示することで生徒が主体的に習得した知識を活用できるような学びの過程を実現することが重要である。ここでは、街の子育て環境調査を行い、その結果から、更に環境をよくするためにはどうすればよいかグループで探究しながらまとめていくことを目的とした授業展開例について示す。

【授業展開例】				
本時の主題		「親の役割と子育て支援」(2時間目/4時間)		
本時の目標		少子社会における子どもを取り巻く環境について具体的な情報を収集・整理し、地域の子育ての現状を知る。		
過程	指導内容	学習活動	評価について	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 子育てマップの作成方法を理解した上で、グループごとに地域の具体的な子育て環境の実態を調査する。 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査に必要な役割分担等の準備ができてい る。 <p>〈評価方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> 調査における注意事項を再確認する。
	<p>注1: 授業はパソコン室等インターネット環境が整備されている場所で実施するが、子育てに関するパンフレットなどの紙媒体も準備しておく。</p>	<p>注2: 役割分担については、一人が担当する係を二つ以上とし、兼務担当とすることで、少人数グループでもグループ内で相談しながら進めることが可能となる。また他者の意見を参考に調査を進められるよう留意して指導する。</p>		
展開	<ul style="list-style-type: none"> 街の子育て支援調査 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページやパンフレット等を参考とし、地域の子育て支援対策やサービスが受けられる場所、育児に優しい施設等を具体的に調査し、グループごとにまとめる。 	<p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 街の具体的な子育てに役立つ情報を収集することができている。 <p>〈評価方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇行動観察、ワークシート <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 街の子育て支援や育児について関心を持ち、社会の果たす役割について考えようとしている。 <p>〈評価方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> 役割を分担しながら各係2人以上のグループとなって行い、相談しながら作業を進めるよう指導する。
	<p>注3: 調査の途中でグループごとに話し合う時間を設定し、各係の調査結果を基に、更なる調査が必要な部分について、お互いの意見を出し合い、作業を確認することで、効果的に調査を進められるよう、留意して指導する。</p>	<p>【役割分担の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●制度係 → 具体的支援策を調査 ●施設係 → 子育てに役立つ施設を調査 ●病院係 → 子どもを見る病院を調査 ●危険係 → 子どもが危険な場所を調査 		
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の調査結果を、ワークシートにまとめる。 	<p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査した情報を適切にまとめている。 <p>〈評価方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ●「CF(努力を要する)」と判断した生徒への手立て ◇自らの子ども時代を振り返り、サービスや、遊んでいた施設等を思い出させる。
	<ul style="list-style-type: none"> 次時の学習内容の把握 	<ul style="list-style-type: none"> 次時のグループワークの内容について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに調査内容をまとめる。 次時までまでに収集すべき情報を確認する。 	

子育てマップ調査	
担当係	調査した内容
調査の感想	
1年()組()番 氏名()	

記入後
→

子育てマップ調査	
担当係	調査した内容
施設係	<input type="checkbox"/> 商店には授乳室が完備。 <input checked="" type="checkbox"/> 丁目に子どもを寝かせられる個室レストラン有。公民館で週1回、絵本の読み聞かせ実施。
危険係	<input checked="" type="checkbox"/> 丁目は歩道がなく、交通量が多い。 <input checked="" type="checkbox"/> 公園付近では野良犬がよく見られる。 <input checked="" type="checkbox"/> 公園には深い池がある。
調査の感想	自動車の交通量が多いのに、信号がないため、交通事故に注意しなくてはならない危険な場所が多くあった。
1年(●)組(●)番 氏名(● ● ● ●)	

実習の授業において、生徒が見通しを持って取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びを行うためには、ルーブリックを活用し、生徒に評価規準を示すことにより、生徒は自分の学習段階を知ることができ、学習をより意欲的に進めるためには効果的であると考えられる。単元「親の役割と子育て支援」におけるルーブリックの例を次に示す。

【ルーブリックの例】				
評価項目	評価の観点	C (1点)	B (3点)	A (5点)
事前 学習	関心・意欲・態度	積極的に取り組むことができない。	積極的に取り組んでいる。	目的を理解し、積極的に取り組んでいる。
	思考・判断・表現	親のしつけや社会の支援の必要性について、自分の考えがまとめられない。	親のしつけや社会の支援の必要性を理解し、自分の考えをまとめている。	親のしつけや社会の支援の必要性を理解し、将来親となる立場で自分の考えを具体的にまとめている。
	技能			
	知識・理解	地域の子育て支援の重要性が理解できない。	地域の子育て支援の重要性が理解できる。	地域の子育て支援の重要性を理解し、課題の解決策が理解できる。
調査 分析	関心・意欲・態度	自分の役割を理解し、調査を進めることができない。	自分の役割を理解し、調査を進めることができる。	他係と連携し、積極的に調査を進めることができる。
	思考・判断・表現	子育て支援の課題について、自分の考えをまとめ発表することができない。	子育て支援の課題について、自分の考えをまとめ発表できる。	子育て支援の課題について自分の考えを具体的にまとめ、子どもを育てる立場に立った発表ができる。
	技能	地域の子育て支援の情報を収集したり整理することができない。	地域の子育て支援の情報を収集したり整理することができる。	地域の子育て支援の情報を多様な視点から収集したり整理できる。
	知識・理解			
発表時	関心・意欲・態度	自分の役割に責任を持って発表できない。	自分の役割に責任を持って発表している。	自分の役割に責任を持ち、聞く側に伝わるように意欲的に発表している。
	思考・判断・表現	他班の発表を聞いて改善策について考えたり、まとめたりすることができない。	他班の発表を聞いて改善策を考え、まとめている。	他班の発表を聞き、家庭科の学習を生かし、多様な視点から考えた改善策をまとめている。
	技能			
	知識・理解			
事後 学習	関心・意欲・態度	ワークシートを作成することができない。	改善点をまとめ、ワークシートを作成することができる。	改善点をまとめ、ワークシートを丁寧に作成することができる。
	思考・判断・表現	発表後に、改善点を見付けることができない。	発表後に、改善点を見付けることができる。	発表後に改善点をまとめ、今後に生かす方策を具体的に提示できる。
	技能			
	知識・理解			

Topic

ホームプロジェクトの指導例

～自ら主体的に考え、行動し、解決を図る学習の進め方～

◆ホームプロジェクトの進め方と評価の在り方

新しい社会の在り方を自ら創造する資質・能力を育むためには、教師が習得・活用・探究といった学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた「深い学び」の過程を実現できているかどうか重要である。ホームプロジェクトは、家庭科で学習した内容を基に生徒一人一人が自分の家庭生活を見つめ、自分の生活に役立てることを目的とし、その充実・向上を目指した効果的な学習であるといえる。

ホームプロジェクトの指導と実践の流れ

妹の野菜大好き大作戦

指導方法

家庭科の学習を通じ、日常生活の身近な場面で気になることをいくつかメモしよう。

メモした内容から、自分が強く関心を持った課題を選び、テーマを決めよう。

関心を持った課題を解決するためにはどうすればよいか、具体的な改善策を考え、改善計画を立てよう。

改善計画を実施し、実施した結果は写真・レポートなどで分かりやすく記録しよう。

実施した結果の反省や感想をまとめよう。自己評価をし、今後の課題を考えよう。

他の人の発表を聞き、自分の生活にも役立つことがないか考えてみよう。

家庭科の
学習から
問題発見

テーマの
決定

計 画

実 施

反 省
評 価

発 表

具 体 例

- 成長に野菜の栄養素は不可欠。
- 今のうちに妹の野菜嫌いを改善。



習得

- 妹の野菜大好き大作戦～トマト嫌いを治す編～

習得

- トマト料理のレシピ作成。
- 苦手克服までの手順の確認。



活用

- 妹と一緒にレシピの中からトマト料理を調理。

活用

- 妹がトマトを食べることができた理由を考察。
- レシピを改善。

探究

- まとめたことを発表。
- 他の人の発表がもっとよくなるアドバイス。
- 反省を基に冊子を改善。



探究

『ホームプロジェクトの評価方法』

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価規準	「ホームプロジェクト」について関心を持ち、主体的に学習活動に取り組んでいる。	生活上の課題を見だし、その解決を目指して、科学的に探究し、表現している。	計画に沿って実践することができている。	「ホームプロジェクト」の実践に必要な知識を身に付けている。
評価方法	ワークシート	ワークシート 発表内容 説明原稿	発表資料	ワークシート